

## 巻頭言

公立大学法人国際教養大学  
理事長・学長 中嶋 嶺雄

わが国の高等教育のより一層の高度化と知的基盤社会の本格的到来に備え、従来の大学院とは異なる専門的・実践的な大学院の制度が専門職大学院としてスタートしたのは、21世紀に入ってからのことです。わが国最初の公立大学法人として2004年に開学した国際教養大学は、2008年9月にまさにグローバル化時代にふさわしい「グローバル・コミュニケーション実践研究科」というこれまでにないユニークな専門職大学院をスタートさせました。英語教育実践領域、日本語教育実践領域、発信力実践領域という3つの領域からなる専門職大学院です。

グローバル社会や高度情報社会においては、高度に実践的なコミュニケーション能力及び各領域に関する指導力を有した専門的な人材の養成が求められています。とくに日本語教育実践領域は、日本国内・海外の教育機関等において日本語が教えられるというだけではなく、高度な専門知識を有する日本語教師を養成することと日本語教師のリカレント教育とを目的にしています。

国際交流基金の2009年度海外日本語教育機関調査結果速報によりますと、世界で日本語を学ぶ学習者は前回の2006年度年と比べ、22.5%増加し、133か国・地域で365万人に達しています。地域別では東アジアと東南アジアの学習者が全体の80%を越えます。学習者の教育段階別では中等教育が54.9%、次いで高等教育が26.6%です。機関数も教師数も増加し、海外の日本語教師は約5万人、そのうち日本語母語話者は28.2%、残りの71.8%は現地の教師です。日本語教育上の問題点としては「教材不足」「教材・教授法情報不足」などがあげられており、最新の実践的日本語教授法や教材に関する知識と教材作成の技能をあわせもつ教師の育成が求められていることがわかります。本学の日本語教育実践領域はまさにこのようなニーズに応えるものと言えましょう。

このたび発刊されます日本語教育実践領域実習報告論文集は、本学における日本語教員養成プログラムの実績報告であるだけでなく、今後日本語教師をめざす人々の将来につながる学問的蓄積の一つになるものと思います。この論文集が日本語教育関係者に広く迎えられることを期待しております。

国際教養大学専門職大学院  
グローバル・コミュニケーション実践研究科  
日本語教育実践領域

# 実習報告論文集

第1号

2010年8月

